

令和3年度 事務事業評価表 ( 令和2年度実績 )

<b>事務事業名</b>		動物園管理運営事業費			<b>担当所属</b>	動物園		
基本情報	<b>分野</b>	6 産業・観光	<b>事業期間</b>	～ 永年				
	<b>基本施策</b>	5 観光交流の推進	<b>会計種別</b>					
	<b>推進施策</b>	3 徳山動物園の魅力向上	<b>実施計画</b>			<b>総合戦略</b>		
事業概要	<b>対象</b>	徳山動物園の管理運営に関する全般						
	<b>意図</b>	本市有数の情報発信・交流拠点として、動物園に市内外から多くの来園者を迎える体制を確保することで、その役割を果たすことができる。						
	<b>成果</b>	動物園を交流拠点施設として、また、社会教育施設として、管理運営することにより、交流人口の拡大や市民のレクリエーション機能の充実を図ることができる。とともに、動物を通じて、自然環境に対する見識の向上を図る。						
	<b>手段</b>	【事業概要】動物園を交流拠点施設として、また、社会教育施設として、管理運営を図る。【主な内容】入園者の受付、駐車場の整理、予算管理執行、開園のための勤務体制の確保、施設の維持・保守点検、事業を告知するための広告宣伝、入園料収入以外の自主財源の確保						
指標	<b>活動指標</b>	<b>指標名</b>		<b>単位</b>	<b>H30年度実績</b>	<b>H31年度実績</b>	<b>R2年度実績</b>	<b>R3年度見込</b>
		徳山動物園の入園者数	<b>目標値</b>	人	320000	360000	210000	300000
			<b>実績値</b>	人	280542	268607	195757	-
			<b>目標達成度</b>	%	87.7	74.6	93.2	-
コスト	(単位：千円)		<b>平成29年度 決算</b>	<b>平成30年度 決算</b>	<b>平成31年度 決算</b>	<b>令和2年度 決算</b>	<b>令和3年度 予算</b>	
	トータルコスト		92,224	98,861	104,087	104,808	108,354	
	事業費		64,373	74,552	80,053	78,549	88,749	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	33,264	51,181	51,493	24,354	52,824	
		その他	0	0	0	0	10,103	
	一般財源		31,109	23,371	28,560	54,195	25,822	
	人件費合計		27,851	24,309	24,034	26,259	19,605	
正職員		27,851	24,309	24,034	26,259	19,605		
正職員以外		0	0	0	23,984	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(23,984)	(0)		
人員	正職員 (人)	3.78	3.31	3.31	3.67	2.74		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	11.35	0.00		
周辺環境	<b>開始時の周辺環境</b>							
	徳山動物園は、旧徳山市の市制施行25周年を記念して昭和35年3月20日に開園							
	<b>現状の周辺環境</b>							
平成25年に動物園のリニューアル事業工事に着手し、平成28年3月周南の里ふれあいゾーン、平成29年10月自然学習館、野鳥観察所、平成30年8月ペンギンプール、噴水広場、平成31年4月ゾウ舎と順次オープンしている。50000㎡の園内に104種397点の動物を展示（令和3年3月末現在）								
<b>今後の予想される周辺環境</b>								
動物園リニューアル事業は、近年の市の財政状況や計画策定時からの環境変化等を踏まえ、全体事業費や事業期間の精査が必要なことから、今後基本計画を再検討し、基本設計に進めていく。								
評価	<b>評価項目</b>		<b>評価</b>	<b>評価の理由</b>				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	市の交流拠点施設として、適切に動物園を管理運営していく必要がある。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	交流拠点施設として、安心安全な管理運営を行っている。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	B					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	会計年度任用職員制度が導入された令和2年度から、駐車場管理業務は直営から、業務委託に見直しを図った。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	A		動物園管理運営業務については、安心安全を第一に運営を行っている。今後、リニューアル事業の進展に伴い窓口業務体制の見直しを検討していく。					
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園は、本市における重要な交流拠点施設であるとともに、「いのちの博物館」として、種の保存、環境教育等の重要な役割を担っており、今後も、適切に管理運営をしていく必要がある。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	<b>改革効果（どのような効果が期待できるか）</b>							
リニューアル事業の進展に合わせて、動物園の魅力向上、入園者数増につなげていく。								

令和3年度 事務事業評価表 ( 令和2年度実績 )

事務事業名		動物園飼育事業費			担当所属	動物園		
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	～ 永年				
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別					
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	徳山動物園の飼育動物						
	意図	展示動物を適切に飼育管理し、また繁殖、調達することで、種の保存に取り組み、継続的な動物園業務の実現を図るもの。						
	成果	令和3年3月末現在で、104種397点の動物を飼育展示しており、入園者が観察することができている。そのうち8種28点の繁殖実績となった。						
	手段	動物福祉に配慮した適正な飼育環境を維持し、必要な飼料を準備する。必要な検査、診療を行い、飼育技術の向上のための情報を収集し研究する。						
指標	活動指標	指標名	単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込	
		繁殖推進種繁殖率	目標値	%	30	30	30	30
			実績値	%	45	45	33	-
			目標達成度	%	150.0	150.0	110.0	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		104,448	110,915	110,992	112,447	109,045	
	事業費		31,947	31,453	31,048	29,377	32,129	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	31,947	31,453	31,048	29,054	30,159	
		その他	0	0	0	323	1,970	
	一般財源		0	0	0	0	0	
	人件費合計		72,501	79,462	79,944	83,070	76,916	
正職員		72,501	79,462	79,944	83,070	76,916		
正職員以外		3,267	0	4,041	10,769	0		
(事業費集計済分)		(3,267)	(0)	(4,041)	(10,769)	(0)		
人員	正職員 (人)	9.84	10.82	11.01	11.61	10.75		
	正職員以外 (人)	2.00	0.00	1.60	3.90	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	昭和35年3月に80種350点の展示動物で徳山動物園が開園した。							
	現状の周辺環境							
動物園開園後、昭和46年には192種837点の展示動物を飼育、昭和58年には903点と展示動物が増加したが、その後減少し、令和3年度3月末現在、104種397点の展示動物を飼育している。								
今後の予想される周辺環境								
野生動物保護の観点から、動物の輸入は年々困難になっている。動物の購入・導入については、フリーディングローンの適切な運用などで、機会を捉えた動物の確保を進めていく必要がある。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	継続的な動物園業務の実現を図るため、展示動物の適切な飼育管理は必要である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	リニューアル後の飼育計画種などを中心に、繁殖を推進し、動物の補充を進めている。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	動物園の飼育動物は、野生から調達するものだけではなく、動物園内で繁殖させ確保する必要性が高まってきている。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	動物園の重要な役割である「種の保存」を実践できるように適正な飼育管理を行っていかなければならない。動物たちの元気な姿を多くの市民にご覧いただき、学びと楽しさのある動物園として引き続き役割を果たしていく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園の大事な役割の一つである「種の保存」を実現していくため、今後も適切な飼育を行い、繁殖を促していくことが重要である。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							

令和3年度 事務事業評価表 ( 令和2年度実績 )

事務事業名		動物園教育普及事業費			担当所属	動物園		
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	～ 永年				
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別					
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	徳山動物園に来園された方、また、徳山動物園の情報を受け取った方						
	意図	動物園に来園された方などに、動物の情報や動物をとりまく生息地環境について興味を持っていただき、環境に配慮した豊かで文化的な市民生活の実現に資するもの						
	成果	コロナウイルス感染拡大防止の為、4月から5月にかけて長期の休園となり、また、自粛生活の影響などから、教育イベントへの参加者は、例年の6割程度となった。						
	手段	教育イベントやプログラム、コンクールの実施、講演会の開催、各種解説の表示などで、入園者が動物の環境などについて考える機会を提供する。						
指標	活動指標	指標名	単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込	
		教育イベントの延べ参加者数等	目標値	人	15000	15000	15000	15000
			実績値	人	15358	12557	8354	-
			目標達成度	%	102.4	83.7	55.7	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		19,962	22,563	21,653	7,661	17,704	
	事業費		1,321	825	887	506	890	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	1,321	825	887	506	890	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		0	0	0	0	0	
	人件費合計		18,641	21,738	20,766	7,155	16,814	
正職員		18,641	21,738	20,766	7,155	16,814		
正職員以外		0	0	616	328	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(616)	(328)	(0)		
人員	正職員 (人)	2.53	2.96	2.86	1.00	2.35		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.30	0.10	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	昭和35年の開園時から動物画コンクールを県下3園館で実施							
	現状の周辺環境							
動物画コンクールなどに加え、学校との連携の中での総合学習や職場体験など、体験型の学びも求められている。また環境学習に関する取組の重要性が増している。								
今後の予想される周辺環境								
今後は、「環境意識」や「命の尊さ」に気付く機会となる体験型・参加型のプログラム、またリモートで利用できるプログラムが求められている。								
評価	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	市営の動物園として、動物を通じた環境学習や、命の学びを提供していくことは重要な使命である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	C	コロナウイルス感染拡大防止に伴う長期の休園や、社会的な自粛生活の影響で、中止となったプログラムも多く、参加者数が前年比約3割の減少となった。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	C					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	環境学習と命の学習について、引き続き取り組んでいく。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
		10. これまでの実施手段	A					
総合評価	B	動物園は、「いのちの博物館」であり、動物を通して、「自然環境」や「いのち」について学ぶ場であることが大切であるが、コロナ禍の影響を強く受け、十分な事業展開ができなかった。						
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園は、「いのちの博物館」という使命をもって、今後も教育普及活動に取り組んでいく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							
アフターコロナの社会変化に応じたプログラムの形態や、情報提供の手法について広く検討が必要である。特に、学校に普及したタブレット端末を利用した新しいサービス提供について、検討が急務となっている。								

令和3年度 事務事業評価表 ( 令和2年度実績 )

<b>事務事業名</b>		動物園魅力向上推進事業費			<b>担当所属</b>	動物園		
基本情報	<b>分野</b>	6 産業・観光	<b>事業期間</b>	平成17年度 ~ 永年				
	<b>基本施策</b>	5 観光交流の推進	<b>会計種別</b>					
	<b>推進施策</b>	3 徳山動物園の魅力向上	<b>実施計画</b>		<b>総合戦略</b>			
事業概要	<b>対象</b>	徳山動物園に来園された方、また、徳山動物園の情報を受け取った方						
	<b>意図</b>	常に動物園から情報を発信し身近な存在として感じていただくことで、動物園の魅力向上させるもの。ボランティアの力を活用して先進的な取り組みや質の高いサービスを提供しようとするもの。						
	<b>成果</b>	多くの入園者の集客につながる効果的な情報を発信し、また、園内では、ふれあい体験などを通じて、観る動物園から、体験する動物園としての魅力向上に寄与している。						
	<b>手段</b>	動物園に関する情報を発信し、多くの人々に楽しく興味深い企画を開発し提供する。ボランティアの育成を通じ、より魅力ある動物園とする。						
指標	<b>活動指標</b>	<b>指標名</b>		<b>単位</b>	<b>H30年度実績</b>	<b>H31年度実績</b>	<b>R2年度実績</b>	<b>R3年度見込</b>
		各体験などの利用者数	<b>目標値</b>	人	250000	250000	250000	150000
			<b>実績値</b>	人	248887	225839	77292	-
			<b>目標達成度</b>	%	99.6	90.3	30.9	-
コスト	(単位：千円)		<b>平成29年度 決算</b>	<b>平成30年度 決算</b>	<b>平成31年度 決算</b>	<b>令和2年度 決算</b>	<b>令和3年度 予算</b>	
	<b>トータルコスト</b>		54,514	46,824	44,170	63,844	64,152	
	<b>事業費</b>		14,727	14,217	14,400	16,263	19,219	
	<b>特定財源</b>	<b>国庫支出金</b>	0	0	0	0	0	
		<b>県支出金</b>	0	0	0	1,146	1,220	
		<b>地方債</b>	0	0	0	0	0	
		<b>受益者負担</b>	14,727	14,217	14,400	14,735	17,593	
		<b>その他</b>	0	0	0	382	406	
	<b>一般財源</b>		0	0	0	0	0	
	<b>人件費合計</b>		39,787	32,607	29,770	47,581	44,933	
<b>正職員</b>		39,787	32,607	29,770	47,581	44,933		
<b>正職員以外</b>		8,543	0	9,133	6,749	0		
<b>(事業費集計済分)</b>		(8,543)	(0)	(9,133)	(6,749)	(0)		
人員	<b>正職員 (人)</b>	5.40	4.44	4.10	6.65	6.28		
	<b>正職員以外 (人)</b>	3.20	0.00	3.85	2.40	0.00		
周辺環境	<b>開始時の周辺環境</b>							
	「見るだけ」の動物園から「ふれあう、体験する」という新しい形の動物園運営につなげるために、体験をベースにした事業を展開している。							
	<b>現状の周辺環境</b>							
評価	<b>今後の予想される周辺環境</b>							
	動物園リニューアル事業により、平成28年には周南の里エリア ふれあいゾーン「るんちゃ♪るんちゃ」がオープンし、多様な体験プログラムを展開している。コロナ禍に対応するため、SNSでの情報発信を強化した。							
	動物園リニューアル事業の進展、コロナの終息に目途がつけば、ふれあいなどのプログラムを再開し、SNSなどでの情報提供や、ボランティアの活動強化により魅力向上が図れる。							
評価	<b>評価項目</b>		<b>評価</b>	<b>評価の理由</b>				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	周南市の主要な交流拠点として、動物園の魅力向上を図ることは必要である。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	コロナ禍の影響で、事業の内容の変更や、イベントなどを中止することになった。外出自粛の影響もあり直接の参加者は減少した。一方、SNSなどの利用者は増加した。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		C				
		6. 上位施策への貢献度		C				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	ボランティアの育成などを進め、市民の力を活用しながら、本市の主要な観光施設として魅力向上を進める。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B		「見る動物園」から「ふれあう、体験する動物園」というニーズに応えながら、「環境」や「命」を学べる魅力的な取り組みを継続する。また、市内の観光情報などをあわせて発信し、回遊性を高める取組みが必要である。					
改革案	<b>今後の実施方向性</b>	維持	「ふれあう、体験する」というニーズに応える魅力的な事業を行いながら、来園者の増加につなげる。また、来園者による地域への周遊性を高めるよう、近隣の施設や中心市街地などとの連携の在り方について検討する。					
	<b>成果方向性</b>	成果維持						
	<b>コスト方向性</b>	コスト維持						
	<b>改革効果 (どのような効果が期待できるか)</b>							
動物園の来園者による地域経済への波及効果の向上、また、地域資源との連携による相乗的な動物園の魅力向上								

令和3年度 事務事業評価表 ( 令和2年度実績 )

事務事業名		動物園リニューアル事業費			担当所属	動物園		
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	平成20年度 ~ 令和14年度				
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別					
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画	該当	総合戦略			
事業概要	対象	動物園施設全般						
	意図	動物園の全面リニューアルを計画的に進め、魅力向上による来園者数の増加を図るとともに、「まちなか動物園」として中心市街地との連携を図り、交流人口の拡大や「まち」の活性化につなげる。						
	成果	リニューアルの第1弾として北園において平成28年3月21日に「るんちゃ♪るんちゃ」がオープンし、平成29年10月1日に自然学習館「ないちやる」・野鳥観察所、平成30年8月5日にペンギンプール・ふんすい広場が順次オープンした。南園においては平成31年4月26日にゾウ舎がオープンし、動物園の魅力向上とともに事業の進捗が図られた。						
	手段	老朽化が進む動物園の全面リニューアルを計画的に行い、動物、人、環境にやさしい動物園として整備していく。						
指標	活動指標	指標名	単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込	
		整備進捗率（面積ベース）	目標値	%	27.8	35.7	43.8	43.8
			実績値	%	27.8	35.7	35.7	-
			目標達成度	%	100.0	100.0	81.5	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度決算	平成30年度決算	平成31年度決算	令和2年度決算	令和3年度予算	
	トータルコスト		592,924	778,181	172,413	372,586	355,677	
	事業費		584,893	770,029	163,918	344,896	322,549	
	特定財源	国庫支出金	360,883	306,723	39,454	155,807	134,112	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	173,900	363,600	75,200	123,800	140,500	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		50,110	99,706	49,264	65,289	47,937	
	人件費合計		8,031	8,152	8,495	27,690	33,128	
正職員		8,031	8,152	8,495	27,690	33,128		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	1.09	1.11	1.17	3.87	4.63		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	昭和35年3月に開園した徳山動物園は、園内施設の老朽化が著しく、また、展示方法が利用者ニーズや動物園としての使命等に適合しなくなってきたことから、動物園の全面リニューアルを進める必要がある。							
	現状の周辺環境							
平成21年度に「徳山動物園リニューアル基本計画」を策定し、平成25年度から工事に着手している。令和2年度に計画策定時からの環境変化や市の財政状況等を踏まえ、基本計画の事業期間や全体事業費等について見直しを行った。								
今後の予想される周辺環境								
基本計画に基づき、令和14年度の事業完了に向け、着実な事業進捗を図る。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	動物園の全面リニューアルを実施し動物園の魅力向上を図ることで、中心市街地の賑わいの創出につなげる。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	令和2年度工事を繰越したことにより、令和2年度実績は目標値を達成していないが、令和3年度には繰越事業を適切に遂行し、アジアの熱帯雨林ゾーンを供用開始する予定である。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	B					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	動物園リニューアル事業は、事業開始から10年が経過しており、動物園を取り巻く状況、期待される役割の変化や市の財政状況等を踏まえ、令和2年度に基本計画の見直しを行った。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	動物園リニューアル事業は、令和2年度に事業の中間年として進捗の再確認をすとも基本計画の見直しを行っており、事業の精査をしながら計画的に整備を進めている。						
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園リニューアル事業は、平成25年度の工事着手以降、順次整備を進めてきたが、事業開始から10年が経過した令和2年度に中間年の見直しとして基本計画を変更した。今後についても社会環境の変化等を考慮し、事業精査を行いながら進めることとしている。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							・事業の効率化、最適化 ・魅力向上による集客増に伴う入園料収入の増（管理運営費における自主財源比率の向上）